

令和6年度第1回地域職業能力開発促進協議会における協議結果の報告

労働局 番号	労働局 名	(a) 地域の人材ニーズ の把握	(b) 公的職業訓練の実 施状況の検証	(c) 訓練効果の把握・ 検証等	(d) その他の職業能力開 発促進のための取組	(e) 地域職業訓練実施 計画の策定方針（次年度 計画に関すること）	リカレント教育を 実施する 大学等と して参加 した大学 等名	社会福祉 協議会の 参加の有 無	地方自治 体の生活 困窮者自 立制度主 管部局の 参加の有 無	都道府 県が労働局と 共同で 事務局となっ ている かの有 無
35	山口	<p>&lt;意見等&gt; ◎学校法人YIC学院から厚生労働省委託事業「受講者の特性に対応した教育訓練手法の構築・普及促進事業」の『DX推進ができるICT活用サポーター養成訓練プログラムの開発とその実効性を高める地域密着型女性求職者トータルサポートシステムの構築』の事業概要と進捗状況について説明。 受講生の募集活動については、スタートアップセミナー、Googleリスティング広告、厚生労働省事業用のホームページの活用のほか、事前説明会や子育て関係の市役所等の窓口、幼稚園や子育て支援センターなどでリーフレットを配布した結果、2つのコースに、合わせて51名の申し込みがあった。 ◎文部科学省委託事業「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」の『観光・病院・サービス業等の階層別リスキリングのモデル構築事業』の概要について説明。 ○上記説明に対して委員からの意見なし</p>	<p>&lt;意見等&gt; ◎令和5年度における公的職業訓練の実績について、山口県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構山口支部及び労働局から説明。 ○意見1 IT分野における就職率が低調に見えるが、その要因は如何。 ○意見2 充足率が低調な学卒者訓練への対応は如何。 ○意見3 令和5年度に実施された観光分野の求職者支援訓練の実施状況は如何。 ○意見4 高齢者の職業訓練あっせん状況の分析は如何。</p>	<p>&lt;意見等&gt; ◎概要説明 令和5年度は、「医療・福祉・介護分野」を検証し、以下のとおり概要を説明。 ・訓練実施機関は、受講生同士のコミュニケーションを高め、実技の訓練や中途退校防止に努めている。 ・企業側は、「介護における基本知識」、介護を実践するための実技」、コミュニケーションスキル」が必要との意見が多くあった。 ・訓練生からは、高齢者介護（機能維持訓練）だけでなく、障害者介護（機能回復訓練）のカリキュラムや「職場見学、職場体験及び職場実習」は見ることでも役に立つという意見があった。 ・現行の訓練期間では、求められる人材の育成が難しいため、期間を1年間とし、基礎、応用、実践まで学ぶことができるよう改善をするべきなどの報告があった。 ・構成員からは予算の範囲で可能なものから実施してほしいとの意見があった。 ◎公益財団法人介護労働安定センター山口支部から介護業務に関する現状等の説明 ○意見1 協議会は、WGの検証結果を報告する場なのか？</p>	<p>&lt;意見等&gt; ◎教育訓練給付制度の指定講座の状況について説明。 ○意見1 ハローワークへの申請件数のうち、6割強が「運輸・機械運転関係」。 専門実践教育訓練については、ほぼ通信の教育訓練で、看護師や社会福祉士、キャリアコンサルタントなど。</p>	<p>&lt;意見等&gt; ◎7年度計画方針（案）について、概ね6年度計画を踏襲、継続する旨、説明。 ○計画方針（案）に対して委員からの意見なし。</p>	<p>国立大学法人 山口大学  公立大学法人 下関市立大学</p>	<p>無</p>	<p>無</p>	<p>有</p>
		<p>&lt;対応方針&gt; ○特になし</p>	<p>&lt;対応方針&gt; ○意見1 eラーニング訓練での終了者に対する就職支援が不十分であったと懸念。別のコースでは高い就職率で、IT分野だから低いということではない。 なお、ハローワーク職員に対する「デジタル分野」の理解促進を目的とした研修を実施し、職業相談の知識向上を図っている。 ○意見2 産業技術学校の周知広報に尽力している。高等学校に対し、オープンキャンパスや訓練指導員の訪問などを実施。 ○意見3 定員15名を2名で開講。6年度は「観光コース」での計画を設定していない。 ○意見4 年齢別による訓練分野別の就職状況等の把握は行っていない。今後、資料作成に反映させていきたい。</p>	<p>&lt;対応方針&gt; ○意見1 令和7年度以降の介護分野の訓練に、検証結果や委員の意見が反映されるかは不明だが、検証結果について訓練に算入される実施機関への説明材料にはなると考えている。</p>			<p>&lt;対応方針&gt; ○特になし</p>			

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

労働局番号	労働局長	a) 検証対象の訓練分	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見		
35	山口	医療・福祉・介護分野	<p>①訓練実施にあたって工夫している点：（ ）内は訓練期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【受講生同士のコミュニケーションの確保】</li> <li>・中途退校者を出さないため、多くの受講生に就職してもらうため、開講日のオリエンテーションが大事と考えており、「いつでも相談してほしい」と伝えている。（2か月）</li> <li>・開講日のオリエンテーションで、「何を学ぶのか、目指すのか、具体的なイメージを持って取り組んで欲しい」と説明し、訓練の目的について理解してもらっている。（6か月）</li> <li>・「クラス和」：開講日に自己紹介の際、「趣味」などのお話を取り入れることや「自己他己紹介」により早期にクラス内が打ち解けるように心がけている。（4か月）</li> <li>【講義内容で工夫している点】</li> <li>・毎日の仕上げテストで復習し、予習につながる授業に心がけている。（2か月）</li> <li>・高齢者をはじめ、学ぶ機会から遠ざかっていると独学が難しいことからグループワークやチャットなどのアクティブラーニングが効果的と考え、講義に多く取り入れている。（2か月）</li> <li>・実務者研修で学ぶべき内容について、簡単であるが授業に盛り込んでいる。（4か月）</li> <li>・委託訓練（デュアルシステム）においては社会人基礎力としてビジネスマナーや（対人）コミュニケーションスキルを習得可能な訓練導入講習が大きな役割を果たしている。求職者支援訓練の実践コース（ビジネスマナーや（対人）コミュニケーションスキルの設定不可、基礎コースでは可能）との大きな違いである。（4か月）</li> <li>・訓練中に現場スタッフが講師をすることで仕事での経験を伝えている。（共通）</li> <li>・「介護予備」で高齢者の食事の栄養バランスや献立を考えたり（学科）と運動の支援（実技）の科目は4か月訓練という介護分野の訓練設定としては長期であることとなっている。（4か月）</li> <li>【講師について】</li> <li>・技術講師には2名以上の教員に対応し、きめ細かな指導を行っている。（6か月）</li> <li>・科目の講師選定は講師（外部講師）の得意分野を中心に選定している。講師が異なることにより様々な講義を受けることで、視野が広がり、現場での臨機応変な対応が可能となる。（2か月）</li> <li>【資格・取得スキルについて】</li> <li>・すべての訓練において国の基準に基づき「介護における基本知識」や「介護を実施するための必要な技術」などを科目設定している。</li> <li>・訓練期間によって、取得可能な資格や知識・スキルが異なる。</li> <li>2か月：介護職員初任者研修</li> <li>4か月：介護職員初任者研修、福祉用具専門相談員、同行介護従事者養成研修（一般・応用課程）</li> <li>6か月：介護福祉士実務者研修、医療的ケア基本研修</li> <li>【職場見学・職場体験・職場実習等について】</li> <li>○訓練期間の長短により設定時間が異なる</li> <li>2か月：6時間</li> <li>職場見学は、座学や実技訓練より効果的であり、見学時にちょっとした体験も組み入れている。また、この体験が修了後の就職にもつながっていると思っている。</li> <li>4か月：117時間</li> <li>企業実習は10日間ごとに2か所の施設で実施した。長期間訓練のメリットとして①現場の1日の流れが把握できる、②利用者とのコミュニケーションがとりやすくなる、③シクリエーション等多くの仕事に触れることができるなど、実践的な体験が可能である。</li> <li>6か月：36時間</li> <li>6h×6日間、訓練修了1か月前に見学実習を中心に、利用者との会話や食事介護、食事の準備などを行っている。利用者からの感謝の言葉や多くの体験をすることにより実習前の介護職のイメージが変化したとの受講生からの感想がある。</li> <li>○職業訓練実施機関が行っているキャリアコンサルティングの状況</li> <li>・訓練実施期間中、1か月に1回、定期的にキャリアコンサルティングを行っている。</li> <li>キャリアコンサルティングの回数は、おおむね、1か月に1回の実施が適当との声が多かったが、中には、定期的、形式的に実施するより、必要に応じて随時、実施する方が効果的という意見もあった。</li> <li>ジョブ・カード作成支援や面接の受け方等についても導入講習や就職支援の科目にて実施している。</li> <li>○訓練実施に当たっての国の要望、改善して欲しい点</li> <li>・訓練カリキュラムにおいて、資格取得後に職場実習を設定することとされているが、資格を取得すると企業実習前に中途退校する者が増えている。</li> <li>企業実習前の取得資格は介護職員初任者研修受講後でよいのではないかと。</li> <li>・認定職業訓練基本奨励金の一人当たりの支給金額が20年前と同じと認識している。物価の変動等を鑑み、増額について検討をお願いしたい。</li> <li>・認定職業訓練奨励金の支給申請書や提出書類の簡素化を希望する。</li> <li>・訓練実施期間重複の解消を希望する。訓練修了時期と開講時期が重なると、実施機関としての実施体制の確保が困難となるため。</li> <li>○その他</li> <li>・訓練の良い点として、訓練生の年齢層が幅広く、様々な年齢層とコミュニケーションをとることができ、介護職に十分生かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【訓練を受けようと思ったきっかけ】</li> <li>・業務と実務者研修の受講の両立が難しいと感じたため。</li> <li>・家族の介護が必要になったため。</li> <li>・転職のため介護施設に見学に行ったが、最低限の知識が必要と感じたため。</li> <li>【訓練カリキュラムについて】</li> <li>・2か月の初任者研修では、本当に入り口部分しかわからない。PCスキルの授業はいらなかった。</li> <li>・車椅子を使った、「移動、移乗」などの演習は、実践してみないとわからない部分が多かった。もっと実技の時間があればよかった。</li> <li>・職場見学や職場実習は、もっとあった方が良かった。</li> <li>・講師の方と色々な話ができたことは良かった。実際に業務をしている講師の話は大変参考になった。</li> <li>・カリキュラムで扱う障害の話は高齢者を中心に、障害児・障害者の介助について学べるようになった。</li> <li>【訓練を受講してよかったこと】</li> <li>・高齢者でも就職ができたという点が多かった。働く意欲のある高齢者に職業訓練を進めたいと感じている。介護という仕事がタイプな部分がグロスアップされがちなですが、全くそんなことはありません。毎日、いろんな変化が自分にあっていると感じている。</li> <li>・高齢の自分でも人の役に立つ仕事ができることがうれし。自分の介護を必要としている人がいることは仕事の励みになる。実務を3年以上経験し、介護福祉士の資格取得を目指している。</li> <li>・働きながら学ぶことは自分には厳しいが、雇用保険を受給しながら、余裕をもって学べる制度があり感謝している。</li> <li>・前職では時間に追われて流れ作業的に働いていたが、訓練を受講することにより業務のひとつひとつの意味を学び、円滑なコミュニケーション（声掛けなど）が大事であると再認識した。今年、介護福祉士の資格を無事、取得しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【採用時に必要なスキル・業務にあたって必要なスキル】</li> <li>・個人差はあるが「介護」に対する基本的な知識や技術を学ぶ時間を増やした方が経験の浅い人には役に立つのではないかと。</li> <li>・介護対象者は、高齢者だけではなく、障害者の場合もある。高齢者と障害者に対する対応の違いを理解して訓練に臨んでほしい。</li> <li>・学校や訓練など知識面で優秀であっても、利用者及びスタッフとのコミュニケーションスキルが乏しいと介護の仕事は難しい。</li> <li>・相手の立場に立って考えるという姿勢ができていくのが重要である。</li> <li>・PCスキルについては、最低限のスキルがあれば十分である。</li> <li>【訓練カリキュラムについて】</li> <li>・「移動・移乗・排泄」の演習を学ぶことは役に立つと思う。</li> <li>・仕事の就き始めは過剰介護になりやすいことから、「自立支援に向けた介護方法」を多く学ぶことが将来役立つことになる。</li> <li>・「情報収集・アセスメント・介護計画」に関する習得は重要と考える。</li> <li>介護職員初任者研修としては高度な内容であるが、家族から介護に必要な様々な情報を聞き出し、その情報を介護計画に反映させ、職員同士で情報共有をしていくことは介護の仕事をしていくうえで重要であることから、学んでいただきたいと思う。</li> <li>・介護保険制度についての知識習得も必要と思う。</li> <li>【その他】</li> <li>・介護の仕事をするのが楽しいと思ってもらえる訓練にして欲しい。利用者やその家族、スタッフの方にはいろいろな考え方を学ぶ方がいて、つらいことやうまくいかないことがあるけれど、やりがいを感じることも多い。</li> <li>・訓練実施機関に見学・実習をしていただくや障害者介護の業務が理解できると思う。</li> <li>【訓練修了者の採用について、未受講者（未経験者）の採用の場合と比較して期待していること】</li> <li>・利用者に対する説明の仕方が経験者と未経験者では異なる。基礎知識がない方はゼロから教えずなくてはならないが、訓練修了生は、現場のことで戸惑うことはあるが、訓練を受講している分修正が早い。</li> <li>・施設内での勉強会に積極的に参加し、訓練で得た知識との相違についても意見してくれる。</li> <li>・介護福祉士の資格を取得してほしい。</li> </ul>	<p>特になし</p>	<p>○企業や求人者（以下「企業等」という。）が求めるスキル・資格と訓練修了生のスキル・資格</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果検証を行った訓練コースについて、訓練期間の長短により取得できる資格等に違いがあるものの、介護分野の企業等が求める資格は、「介護職員初任者研修」または「介護福祉士実務者研修」の習得は必須であること。</li> <li>実際に、就職した訓練修了生が就職先で、実務経験3年以上となり、「介護福祉士」資格を取得した例もある。</li> <li>・企業側が求めるスキルに、「介護における基本知識」と「介護を実施するための必要な実技」及び「コミュニケーションスキル」が求められている。</li> <li>介護における基本知識は、利用者に対する人権に配慮した声掛けや接し方が理解できることである。あわせて、利用者の車椅子からの移動、移乗や排泄などの実技の基礎を身につけることで、場面に応じて臨機応変に対応できることである。</li> <li>コミュニケーションスキルは、利用者やその家族やスタッフにおいて、円滑に業務を進めていくうえで必須のスキルである。</li> <li>また、介護支援計画を作成するために利用者やその家族からの情報収集やアセスメントを進めていくためのスキルは将来身につけるべきスキルである。</li> <li>・企業側の意見として、特に高齢のスタッフが多い小規模事業所においてはPCスキルについては最低限のスキルで十分と考える事業所もあり、デジタル化が進んでいない現状がある。</li> <li>訓練修了生へのヒアリングにおいても、現在の仕事では、訓練で身につけた「ワード・エクセル」のスキル等を活かす場面はあまり多くないとの回答があった。</li> <li>○訓練に必要なカリキュラム・強化するカリキュラム</li> <li>・訓練実施機関として、受講生同士のコミュニケーションの確保を挙げており、訓練開講のオリエンテーションで、訓練目的の理解や「クラス和」を図るための工夫を図っている。これは、今後、受講生同士の実技を行ううえでも必要であり、中途退校者の防止にもなっている。</li> <li>・職業訓練実施機関、訓練修了生及び訓練修了生採用企業が必要なカリキュラムとして、「職場見学、職場体験及び職場実習」は、訓練生同士の実習等ではわからないことも多く、見るだけでも役に立つため時間を増やして欲しいという意見があった。</li> <li>また、訓練実施機関や企業側も実際に業務を見てもらうことで就職に結びつきやすくなるという意見もあった。</li> <li>・介護には、高齢者だけでなく、障害児や障害者の介護、介助も含まれ、高齢者への介護（機能維持訓練）と障害者等への介護（機能回復訓練）の対応の違いを理解してほしいという意見があった。</li> <li>・一方で、介護業界においてはあまりデジタル化が進んでいない状況が確認されたことから他の業界に遅れを取らないために標準的なデジタル知識やスキルの習得も重要である。</li> </ul>